

水の祓え 祈りの火

下鴨神社



夏の木々は色を濃くして、たくさんの手を伸ばし木陰をつくってくれます。そよぐ涼風にほっと一息つく。木陰でどうしてこんなに涼しいのかしら……。太古より樹は、森は、いつも私たちを守ってくれています。

私の子どもの頃の遊び場は近所の「糺の森」でした。自然なかたちを残す森は航空写真で見ると街中とは思えない広さのある貴重な森で、神聖な神さまの森です。子どもの私はそんなことは思いません、今よりもずっと鬱蒼と草木の生い茂っていた森の中を駆け巡り、流れる小川



祭に遺跡から
発掘された
「水」は
「水」は
「水」は
「水」は

をものともせず跳びはね、捨てられた子犬の世話をこっそりしたりと、楽しく過ごしたものでした。ざわわと鳴る葉擦れの音や虫の声、季節ごとの独特の香りに包まれた、わくわくする秘密の遊び場だったので。

そんな私にとって思い出深い森ともあるのが、今日の目的地である下鴨神社です。古代から神の地として信仰されてきた気配を残す森の中を北へ続く参道は、まっすぐ神社の本殿へと導いてくれます。参道に足を踏み入れ、ゆつくりと歩けば、木漏れ日や境内を流れる泉川と瀬見の小川のせせらぎ、ゆきすぎの風、戯れる鳥の声が聞こえてきます。それらに優しく包み込まれるように、一歩、また一歩。そこにある全てに心がほぐされていくように思います。

献灯すれば、火と水により穢れはすっかりと清められます。池から上がり、持参したタオルで足を拭きサングラスを履く頃には足はとても軽くなり、ほこほこことても気持ち良いのです。夏バテした心身が鱈を食べるより暑気払いになると思うくらいスッキリします。さらに「くぼて」で振る舞われるおいしい御神水を頂

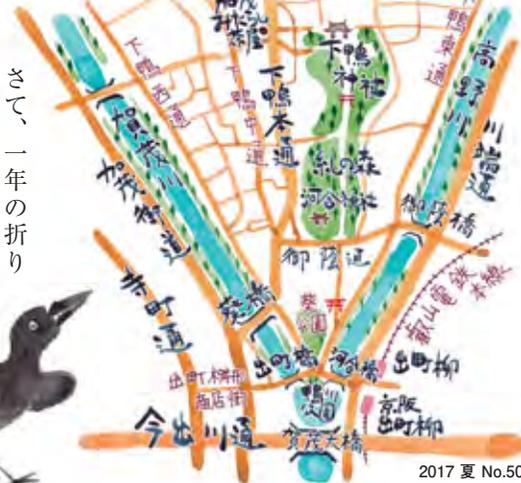
す。「ただすの神さま」に、あるべき自分、素の自分にただしてもらっているのかもしれないね。自然と厳かな心持ちになります。この森を遊び場に育った私は、とても幸せだったことに大人になってから気付きました。

下鴨神社の正式名は賀茂御祖神社。御祖とは、上社である上賀茂神社のご祭神、賀茂別雷大神のお母さんである玉依媛命とお爺さん（外祖父）である賀茂建角身命のこと、このお二人を「ご祭神」としてお祀りしていることを示しています。

古い豪族である賀茂氏の祖先は、神武天皇の御前に立つて先導したといわれる八咫鳥で、賀茂建角身命の化身。彼は大和の葛城から転々と北上し、京の上賀茂、下鴨に落ち着いたといわれています。八咫鳥は三本足の鳥の姿で、道開き、導きの神とされています。神社のご神紋は双葉葵、葵は昔は「あふひ」と書かれ「あふ」は「会う」、「ひ」は「神さまのお力」を示す言葉で、神さまの大きな力に出会う植物が葵であると伝えられています。

くと、ひととき爽快です。朝から行くことも清々しいし、夕刻から行くと蠟燭の火が幻想的で、楼門や境内は千灯もの提灯で照らされ、とても美しいですよ。糺の森には夜店も並びにぎわいます。神事の直会には、御手洗池の湧き水の泡にいわれを持つ、加茂みたらし茶屋さんのみたらし団子を頂くのも私の定番です。

お祭りだけでなく、ぜひ一度、この神さまの森を訪ねてみてください。近隣の人の憩いの場という、のんびりとした空気の中、ゆつくりと歩いて過ごしてみれば、それだけでも、癒やされたと思える神域だと思います。



さて、一年の折り返し点、水無月の晦日に、身魂にたまった半年分の穢れを取り除く「ご神事」「夏越の祓」が各神社で執り行われます。そして七月の土用の丑の日には、下鴨神社で私も毎年楽しみにしている「みたらし祭」という足つけ神事が境内の御手洗池で行われます。葵祭の斎王代も祓をするその池に建つ井上社のご祭神は、瀬織津姫命という罪や穢れを水に流してくれる祓えの女神さまです。灯明を手には素足で池に入れば、冷たい湧き水は膝丈に迫り、霊験あらたかな水により身も心も洗われ、お社の前に

私は森の南西にある河合神社が好きで、必ずお参りして帰ります。正式名は鴨川合坐小社神社で、神武天皇の母、玉依姫命がお祀りされており、女性守護、美麗の神として崇敬を集めています。また神社や私の実家は川の合わさる地域にあり、ここは字のごとく川が合わさった所を守ってくださいっている古い神さまがいっぱいのように思えて好きなのです。

神社から南へ進むとまさに川合の鴨川公園です。三角州に腰をおろしてみたり、飛び石を渡ってみたり、出町の商店街へとお散歩はついつい続きます。



加茂みたらし団子



御手洗祭

〈こばやし ゆきえ〉
京都・下鴨生まれ。大学で日本画を学び、卒業後は本、雑誌、広告、新聞、TVCMなど幅広く絵に関わる仕事に携わる。著書に『京都でのんびり 私の好きな散歩みち』、『京都をてくてく私が気ままに歩くみち』、『京都のいちねん わたしの春夏秋冬』がある。